

[参考事項]

成果情報名：秋田県における6月以降の「幸水」果実のニホンナシ黒星病に対する感受性

研究機関名 果樹試験場 天王分場

担当者 長澤正士・石崎理彩・他2名

[要約]

秋田県において、主要品種「幸水」の果実のニホンナシ黒星病に対する感受性が高い時期は、梅雨期間の6月下旬～7月下旬頃である。

[キーワード]

ニホンナシ・黒星病・幸水・果実発病・梅雨

[普及対象範囲]

県内のニホンナシ産地全域

[ねらい]

県内におけるニホンナシ黒星病の発生は、2008年頃から漸増し、2009年、2012年、2016年および2018年の被害が特に多く、経営上大きな問題になっているが、発生要因について十分に解明されていない。そこで、作付面積の50%以上を占めかつ被害が多い「幸水」の果実の黒星病に対する時期別感受性を明らかにする。

[成果の内容及び特徴]

- 1 2020年の検討の結果、果実の感受性が高い時期は満開58～88日後（7月上旬～下旬）である（図1）。2022年は、満開50～92日後（6月下旬～7月下旬）である（図2）。これらの結果から、感受性が高い時期は満開50～90日後頃と考えられる。
- 2 天王分場（潟上市）における平年の満開日（2012～2021年）は5月5日であるため、満開50～90日後は6月24日～8月3日に相当する。

[成果の活用上の留意点]

- 1 この成果は、自然発生条件下で所定の期間に果実袋を外して果実を暴露し、期間終了後、再被袋することにより得られた。
- 2 梅雨期間は被害部位の切除を徹底し、オキシラン水和剤600倍またはオーソサイド水和剤800倍を10日間隔以内にかけてもれがないよう丁寧に散布する。黒星病の発生が多い場合や降水が多くなる予報が出された場合は、散布間隔を7日以内に短縮する。

[具体的なデータ等]

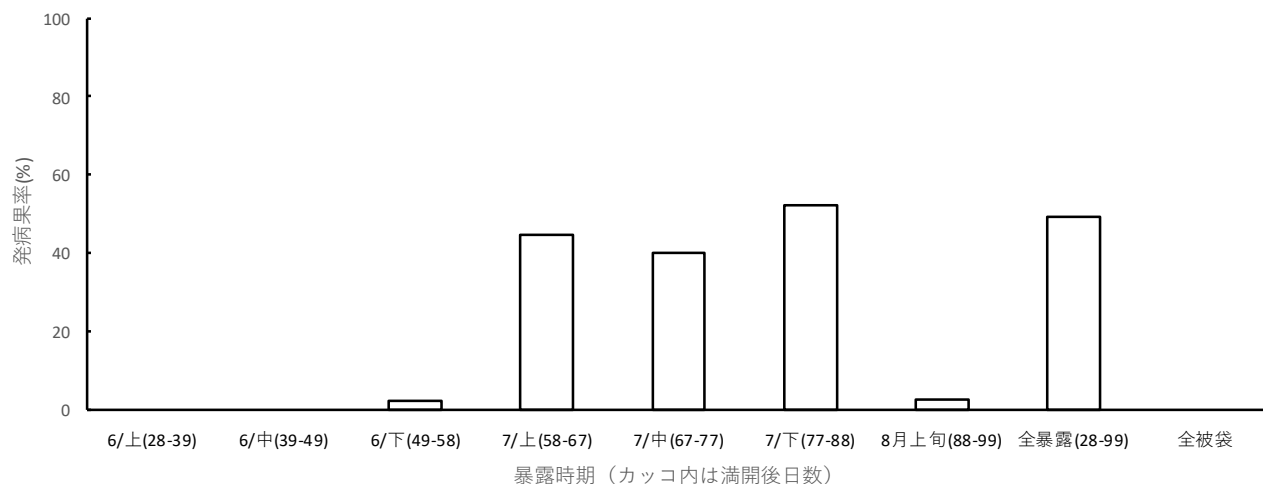


図1 「幸水」果実の黒星病に対する時期別感受性 (2020年)

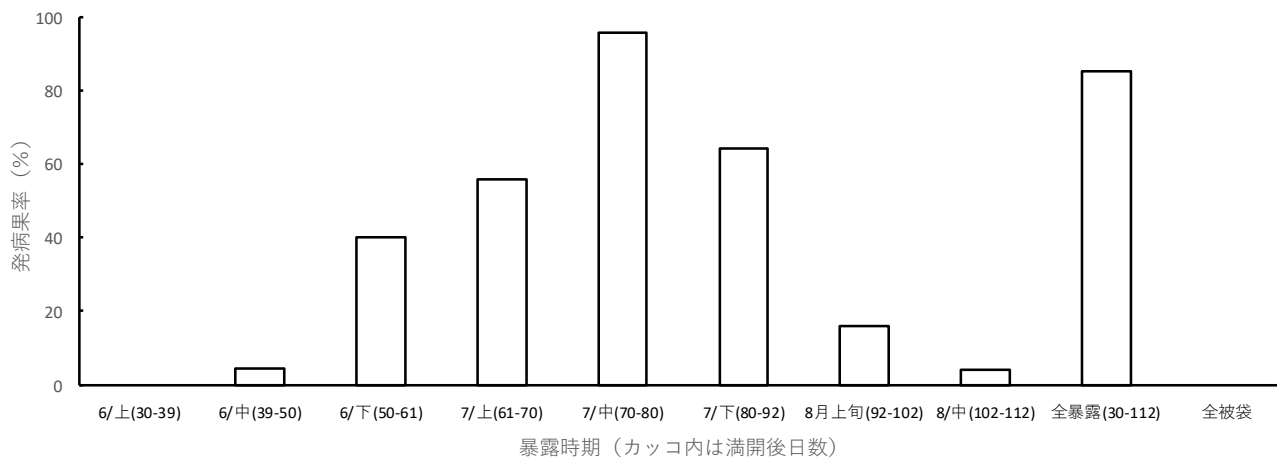


図2 「幸水」果実の黒星病に対する時期別感受性 (2022年)

[その他]

研究課題名：ニホンナシ黒星病の総合防除法の確立

研究期間：令和2～4年度

予算区分：県単

掲載誌等：北日本病害虫研究会報第73号 (2022)